



広報

かじき

第110号

41.5.30 発行

発行所 鹿児島県姶良郡
加治木町役場

発行人 曾木隆輝

編集人 中元邦夫

印刷所 吉屋印刷

全ご家庭に、もれなく配布



手を上げて さっと渡ろう

最近交通事故が急に増加して、わたしたちの身近かな人が何人も亡くなりました。

道路を横断するときは、ほんとうに気を付けましょう。あすはわが身に振りかかるかも知れません。

交通量の多いところには、横断歩道が設けてあります。少々速回りでも道路を横切るときは横断歩道を渡るようにしたいものです。

塩入地区から錦江小学校に通う子どもたちは登校、下校時交通量のはげしい国道を渡らねば

なりません。先生も児童も全く真剣です。

山元自転車店のおじさんが見かねて贈った黄色い旗を手に、手を上げてさっと渡ります。

交通指導の徹底で、錦江小ではまだ事故がありません。しかしながら、これからもずっと無いとは誰が保証できましょう。

車を運転する人はもちろん、歩行者もよくきまりを守り、横断歩道を渡るときは左右をよく確かめ、手を上げてさっと渡りましょう。

(写真は錦江小学校前の横断歩道を渡る児童)

昭和41年度当初予算

総額二億五千一百八十一万六千円

特別会計
 国民健康保険は 四千六百八十四万七千円
 上水道は 一千五百八十七万二千円

町長施政方針（原文）

昭和四十一年度加治木町の一般及び上水道と国民健康保険の二特別会計の当初予算案が上程せられましたので、この機会に新年度施政に対する所信を表明し、あわせてその内容の概略を説明いたします。

わたくしはまず国及び県の行き方を見きわめ、本町の過去及び現況をよく把握し、一般町民のかたがた、別して議会の御要望等を十分勘案して計画をたて、予算を編成し、もつてここに皆様がたの御検討を煩わさうと思ふものであります。

国の経済見通しと方向

国の経済見通しと方向を眺めて見ますと、国の新年度予算は目下国会で審議中ではありますが、原案

を見、その説明を聞きますと、その見通しや経済運営の基本的態度はだいたい次のとおりと思われま

す。すなわち
 個人消費支出や個人住宅建設等は顕著な伸びは見込まれるが、民間設備投資や在庫投資はあまり伸びない。したがって民間需用は全般的にゆるやかな上昇にとどまるであろう。

社会的資本の不足、消費者物価の上昇、企業の体質悪化、生産性の低い部門の近代化立ちおくれ等経済社会のひずみは国民生活の安定向上のためすみやかに是正を図りたい。消費者物価の長期的な安定を図るための必要な施策をとりたいとしております。

これらのため、公債政策に踏み切つて、ここ数年間これを続け、所得税、法人税等中心に減税をなし、財政投融资をふやし、公共事業等はなるべく年度始めに予算令

達をなし、着手するよう措置し、積極的な景気回復策をとる。経済成長率は実質七、五パーセント程度に達せしめる。

このような基本的見地に立つてその施策として景気回復、経済安定成長のため社会資本を整備促進し、物価対策を考え

1. 国民生活の向上、社会福祉の充実をはかり生活環境を整える。
2. 産業基盤を充実し、社会開発を推進する。
3. 農業、中小企業の、近代化をはかる。
4. 文教施設の充実をなす。
5. 物価安定施策を講ずる。

以上のとおりであります。何としまして、昨年度よりも相当上回った予算をつぎ込む方針と見受けられます。地方財政計画を見ますと、総額において一四、五パーセントの伸

び率になっていますが、財源の伸び悩みがあるとすると消費的経費はできるだけ緊縮しようとしていることが伺われます。が、反面地方債、地方交付税等については特別な配慮がなされておりますが、その中に積極性と緊縮性の二面をもつ計画がなされていると見受けま

県の方針

県の方針はどうかと眺めて見ますと
 県議会は去る二日開会、知事の当初予算案の説明を新聞でうかがいますと、その内容を見ますと四十年年度の県内生産所得は前年に比し、十五パーセントの伸びを示し



町長を説明する施政方針

ている。

新年度は産業振興の基となる輸送力の増強、農林中小企業の近代化、観光、教育、文化の向上、社会開発の推進を目標に、ここで県政飛躍の基盤を固めたいとして、五百五十八億五千万円という大型予算案が示されました。

編成方針で公共事業は年度見込額の八割程度、単独事業は昨年九月予算規模の七割程度を計上し、早期着工と完全消化を考慮してあるようです。財源に財政調整積立資金を大幅にとりくずしていることが目立ちますが、いろいろのこととては県議会で論議されることであろうと思いますが、いづれにしても相当積極性がうかがわれます。

本町の現況

町の現状を眺めると、本町の現況は人口の動態で見ますと、五年前と昨年十月国勢調査の時とは人口は五百人ぐらゐの減で、一万九千百余でありましたが、本年一月には推計人口一万九千九百九十四で、二月一日には一万九千二百六十九となりまして、また増加の傾向がございいますが、本町の人口は相当動いていることは事実でございいます。しかし、その中に大幅の減少はどうかといつては、その形でありませぬ。

町民所得は四十年度は三十九年度に比し約九、六パーセントの伸びで、合計十一億三千三百万円と見ていますが一世帯当り二十二、

三万円に当り、県平均に近いものになってきました。

近時工場とか住宅とかの建設が注目すべきものがあることは御承知のとおりであります。

本町の都市像

南九州開発都市建設基本計画が約一年ぐらゐ前から県の企画部を中心に、各方面の専門家により一応原案ができましたが、この内容を検討しますと次のとおりです。

本町人口の四十六パーセントが市街地に集積して人口密度は県内でも屈指の中にはいり、六千人平方キロメートルを越えています。

したがって、本町都市像として考えられますことは、縦貫道と加治木におそらく設けられるであろうインターチェンジのもつ役割が非常に大きい。この影響範囲は

始良郡南部一帯はもとより大隅半島一帯を含む広大なものと予想され、鹿児島市が海陸輸送網の結合的拠点であれば、加治木は主として陸上輸送の流通拠点の役割を果たすことになる。この意味で将来流通機能の施設が充実されるれば、ならない必要性をもっている。鹿児島市の土地利用高度化が限界にくることによって、中小企業の合理化や拡大の対策として、加治木方面一帯にその活路を求めて立地する傾向から、国道沿線一帯は一般工業地区、住宅地区としての開発を進めて、さらにこれに伴う第三次産業の増加が期待され

ます。

したがって、加治木及びその周辺は今後流通機能、一般工業生産機能、住宅機能をもつて、広域地域の都市機能を分担し、教育機能の維持強化をしながら発表することが望ましいとして、市場の整備、公民館の施設強化、下水道建設、医療施設として加治木療養所の強化、下場方面農耕地を先行的に土地区画整理をなし、道路交通網として日豊線の電化、複線化、縦貫道のほかに鹿児島島から予想される加治木インターチェンジとこの予想せらるるインターチェンジから国分検校川までのバイパスを考へていくこととした。

また、港湾施設を強化して内陸性軽工業、労働力需用型工業、でんぶん高次加工工業、竹材工業等をすすめ、農業の近代化を主として上場地帯に進める方針を樹立し、その案に向つて今後積極的指導し、努力することとした。

加治木地区はこういうような、ただ今県内の各方面からなめられた理想図が描かれつつあるわけですが、今後新しい発展の段階に入つたと見てよいと思う。私も大いにビジョンを持ち、町の将来の発展を期し、町民の皆様とともに精一杯の努力をすべき時が来た」と申し上げるのも、あえて過言でないと思ひます。

地方自治はその運営事務も相当高度化、複雑化してまいります。一方では、むずかしくなっております。防ごうとしても優勝劣敗

がはなはだしくなつてくるようです。しかし、わたくしどもは受け継いだこの郷土をいよく開発するために、大きな希望をかけて努力すべき時機が到来したと申すべきでしょう。

議会の要望への反省

議会の要望についてふりかえつてみたいと思ひます。

昭和四十年は、議会の皆様とともに町執行部は国や県その他の団体の指導協力を得、また一般町民各位の協力を得ながら、限られた自主財源をもとにできるだけの努力を傾けました。わたくしどもの力が及ばず、万事が満足すべき結果が表れなかつた点もあります。この点深くおわび申し上げます。

新年度を迎えますに当り、各方面からいろいろの御要望も御意見も出され、いづれも貴重な御高見と拝聴するところでありますが、中でも町民を代表する議会の御要望は、だいたい次のようでありました。

- ① 人件費の増大にかんがみ、人事管理に最善を尽くすこと。
- ② 都市計画事業区域を広げること
- ③ 温泉道路をはじめ町道整備と機械化による能率増進をはかれば。
- ④ 農道等の補助率を引き上げる
- ⑤ 墓地整理と墓地公園計画の実施
- ⑥ 学校施設、特殊学級、プール等建設、渡り廊下等の計画的実施等がその主なものであったと思ひます。

そこでわたくしどもは可能なる限り、この御要請にそうよう努力することとし、本町財政の点、国や県の協力等のことをあるいは計算し、あるいは見通しのつきかねるもの、すなわち交渉中のものなど、あるいは本年はできないもの等は今後に譲ることとして、こゝに新年度の予算をつくることにしました。

町政の重要施策

重要政策として目標にしましたものを申し上げます。

以上の前提に立つて、本年度の施策としては、第一やむを得ないもの以外なるべく町民に負担をかけないように押え、しかし万やむを得ないものは最少限にとどめ、その負担を一層公平公正を期することとしました。

次に施策目標として

1. 産業の発展
2. 文教施設の充実
3. 社会福祉の増進
4. 土木事業の推進
5. 住民サービスの徹底
6. 社会教育の徹底と部落の自主的広域的振興

等に主力を注ぐこととし、投資的経費を可能な限り増やし、町政の積極化と効率的運用をはかり、一方消費的経費はなるべく押える。役場機構の改革をなし、人員配置の適正と人事管理に一層の留意を払うことといたしたいと思つて立案したわけでございいます。

項目別説明

今申し上げました各項目別に構想を申し上げ、その上で予算内容について説明を加えることといたします。

1. 産業の発展は経済の安定策であります。明四十一年度はいよいよ農業構造改善事業を地におろす年でありますので、最善を尽す必要があるとこう考えるわけです。

一方、工場誘致、住宅政策等による人口増を考え、購買力の増強、町内買物運動の推進、商工会等経済界方面とさらに密接に連絡をとりながら商工業育成に努力していきたい。

2. 社会福祉

小田山地区に保育所を新設し、また、し尿処理場の完成、住宅政策、宅地造成等をさらに考えていくと

国保は四十二年一月から家族全員七割給付として、町民の健康保持に一段の力を注がなければならぬわけでは

一方火災増発の傾向にかんがみまた工場等の進出に備えて、消防自動車一台増設する。

これも議会でも取り上げておられた問題ですが、母子センターその他の福祉施設は財源関係もあり、次年度以降にゆずることといたしたい。

しかし、これは文教関係にもはいるわけですが、知力のおとっている不幸な児童のため、特殊

学級はどうしても一学級造るという方針で臨みました。

3. 文教施設関係

数年前教育委員会で計画された文教施設整備五カ年計画は四年目を迎えますが、過去においてその計画どおり実行してまいりました。ただやむを得なかった永原中の屋体が抜けただけですが、たまた今の県の現在の方針としては、なるべく大きいところより済ますとの傾向でござい

ますので、永原、竜中の方はなかなか手が回らない。補助の対策となつてこないという状況でござい

ます。したがって、加中危険校舎、錦江危険校舎四教室、錦江小プールを予算化する。竜小、中の給食室の内容充実をさらに強化する。その他所要経費は、文教は特に大事な問題でござい

4. 土木関係

都市計画の区画整理の拡大の計画は、国、県でも本町の場合、今その時機でないようござい

ます。区域内外通路整備も先ほど申し上げました国の道路等が決まりませんことには、なかなかならぬので、国の補助をつ

けることが困難でございまして、少くとも一カ年待たせざるを得ないかとこのことでありまして、今後努力する必要があります。しかし、国の予算に地方道整備費が今度より計上されているので今年度中、一線を取り上げてこ

れを一つ何とかしようと考えております。その他のもので継続事業はそのまま取り入れることにいたしました。

機械化の問題ですがローラー一台を考慮したいと思ひます。先般労働省に交渉してありますが、具体的には補助が内定いたしませんので、その内定を見ましたら年度半ばで考慮してまいりたいと思ひます。

墓地公園事業は、現在の墓地整理は非常に重大な問題もあるもので、直ちに着手はいろいろな点で不可能であるので、新しいものをりっぱに作り上げるということからまず発足したいと思ひます。

町道の補修強化は移動班を失対の方にもっと充実して、春日橋その他の橋りょうや道路改良補修等は失対事業でやっていたいただきますとともに、普通土木ともからみ合わせてこれを進めていくことといたしたい。

5. 住民サービス

福祉課の国民年金事務を住民課に移し、税務課内の係の変更を行なう等いたしました。も

っと住民サービスができるようにいたしましたと考えております。一方職員も十分事務研修等をなし、姿勢を正して役場の職員は上下を問わず、一部のかたの使用下でなく全体の奉仕者たるの原則をよく守り、一段と職務に精励されるような方法を取っていかうと考へます。

6. 社会教育問題

嘱託員制度を改め、各部落には自治会長を部落で選んでもらい町内を十五地区に分けて、そこに一人の世話人をおいてもらつて、広域行政という考え方を、あるいは自主的発展ということをもとに、末端行政を進めていくこととし、これと同時に社会教育をこれらと並行して徹底させ、町民のよりどころである町民憲章を後で追加議案としてお願いすることといたしますが、町民憲章を制定して、これを信条として明るい家庭づくり、豊かな美しい町づくりを町民こそ努力していただくよう仕向けたいと思ひます。

(以下次号へ)

香典返しを 寄 付

社会福祉協議会へ

- 五千円 萩原 樗木靖衛 (父浅次郎)
- 三千円 井手向 山下豊吉 (母松亀)
- 二千円 岩原西 安藤安光 (父一二)
- 二千円 日本山 石野早苗 (母エイ)
- 二千円 吉原 田屋敷実則 (母ケサ)
- 三千円 西ノ原 西ノ原辰雄母ツルマツ
- 二千円 隈原 榎谷 哲 (父栄助)
- 二千円 西塩入 宝蔵松一 (娘小夜子)
- 三千円 港町 竹下猛男 (母ケサキク)
- 二千円 西塩入 東村茂雄 (母ケサチヨ)
- 三千円 東塩入 飯田与四郎 (義父頼川秀雄)
- 二千円 柳田 河田さかえ (白尾あや)
- 二千円 曲田 曲田サツ (夫市平)
- 三千円 楠園 増田 新 (父市太郎)
- 五千円 西諏訪 花田満雄 (子健一郎)
- 二千円 萩原 宮内虎雄 (妻すえ)
- 二千円 石野 畠中正市 (妻シナ)
- 二千円 柳田 曾木トメ (夫実)
- 三千円 西浦西 石原 侃 (父喜之助)
- 千円 浜村 永田敬二 (妻トメ)
- 二千円 岩原 中原正夏 (娘悦子)
- 千五百円 毛上 藤田藤一 (妻ミヨ)
- 二千円 桑迫 末永三男 (母キク)

三千円
 本町 新納キヨ(母木場トキ)

町育英資金へ

五千円
 萩原 樗木靖衛(父浅次郎)
 三千円
 石野 藤野ユキ(夫操)
 三千円

だ城校区婦人会

ありがとうございました。

航空防除で

ツマゲロ全滅

五月十六日午前五時から約二時間
 間にわたって、木田新興地区(塩田)の
 早期水稲六十五ヘクタールについて、
 ヘリコプターによる航空防除が行な
 われました。

薬剤(デナボン粉剤)を十アール
 当たり三キロ散布しましたが、天候に
 恵まれて、害虫のツマゲロコバイは
 全滅、これで農家はもろろん、関係
 者もほっと一安心しました。

航空防除はこととして四年目になります
 が、その成果が大きいので

木田内場の普通水稲に対しても実
 施するよう計画が進められていま
 す。関係農家のかたのご協力を期
 待します。



ヘリコプターによる
 夜明けの航空防除

わたしたちの 一生活目標

- ◎ゆるし合い協力し合っていていきましよう。
- ◎お互い物言を善意に解釈し、話し合う心を養おう。
- ◎人を批判する前に自己反省しましよう。
- ◎他人の悪口やデマ宣伝はやめよう。

家屋の実態調査

5月から実施

加治木町の家屋評価は昭和三十六年の評価替え以来実施しておりませんので、昭和三十九年の評価基準の改正により、評価替えをすることになり、すでに上場地区は一部を残してほとんど終了しました。本年は五月から上場地区の一部と下場地区を実施します。

日程については、できるだけ早目にお知らせしますが、室内の調査やいろ／＼お尋ねすることもありますので、お忙しいところをご迷惑ですが、お立ち会ひのうえ、ご協力くださいますようお願いいたします。

農耕労賃決まる

田植え 中食 五五〇円に
 なし

本年度の水田耕うん料金と田植え労賃は、農業委員会にはかり、水田耕うん料金 次のように決まりました。

畜力(牛馬耕)	初田	麦田	植代かきのみ	動力(耕うん機)
耕起のみ(すき返しを含む)	耕起から代かきまで	耕起のみ代かき迄	初田	麦田
二、五〇〇円	三、五〇〇円	二、〇〇〇円	一、〇〇〇円	二、五〇〇円
二、五〇〇円	三、五〇〇円	二、五〇〇円	五〇〇円	二、五〇〇円
				三、五〇〇円

田植え労賃

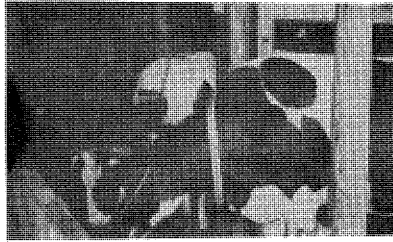
中食なしで男女とも五五〇円、作業時間は午前八時から午後六時までとし、休憩時間は午前中に三十分、中食時六十分、午後三十分間、で、実労働時間は八時間です。

多頭飼育をめざす

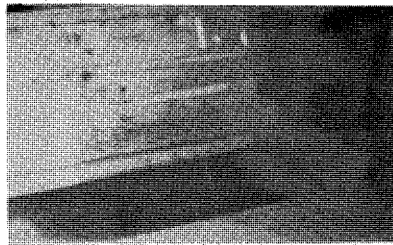
西別府酪農グループ

西別府酪農グループは昭和三十
九年夏に発足、会員五名で一戸当
り二頭平均の乳牛を購入し、将来
十頭内外を飼育して、酪農專業農
家として自立できるように活躍し
ています。

本県における畜産特に酪農で成
功するには、家畜がいかにして夏
を涼しく過すか、また飼料作を
いかにして多量に生産するかにか
かっていると言っても過言ではあ
りません。

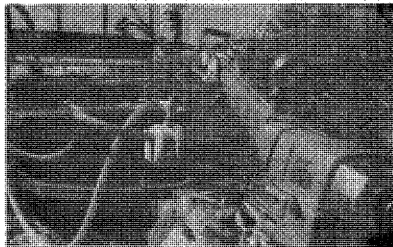


① 多頭飼育の乳牛



② 生乳冷却装置

力をかけないように改良して、作
業をやりやすくしました。
次に飼料作物栽培については、
少ない面積で多量の収穫をするよ
う研究努力して、現在では普通の
一、五倍ぐらいの収量をあげ、同
時に金肥節約とふん尿処理のため
共同で尿散布機を購入し、飼料作
物に随時尿散布をしています。が、
人手の約十分の一の労力で、肥培
管理とふん尿処理を行なっていま
す。



④ 耕耘機に取り付けられた尿散布装置



③ 能率草刈り鎌

力の節約を図りながら増産に力を
入れており、搾乳もミルクカーを入
れて搾乳時間の短縮を行ない、牛
乳の衛生管理のため、今年三月共
同の牛乳冷却設備を設置して、乳
質の改善を図っています。
販売については従来の個人出荷
をやめて、共同出荷に踏み切っ
てあらゆる面の共同作業により、労



⑤ 散布開始



⑥ ホースを延ばす

力の節約を図っている中で、一人
当り、労力的には七、八頭までは
飼える態勢ができています。
昨年度と一昨年度の成績を比較
すると次のとおりで、飛躍的に伸
びつゝあることがわかります。一
戸当り飼養頭数は二頭が五、六頭
となり、産乳量八千二百キログラ
ムが一万四千六百キログラム、乳

代が三十一万円が五十八万円、購
入飼料代八万六千円が十六万円で
一頭当り年間三万九千円の購入飼
料であり、乳代に対する比率が三
十パーセント以内であれば、経営
は良いといわれていますが、この
グループの平均は二十七、七パー
セントで、割合堅実な経営を進め
ています。
今後の課題として、限られた土
地、労力でいかにして頭数をふや
すか、目標の十頭経営にするかが
大きな問題でしょう。
本年は会員のお互いが、さらに
努力して、労力の効率的な使いか
たを研究すべきであり、これが達
成されれば防犯的な六十万円所得
農家として自立できると思われま
す。グループの活躍を期待するこ
と大です。

世帯人口の動き

(昭和41年5月1日現在)

◎ 世帯数	5 291
◎ 人口	19,199人
男	9,070人
女	10,129人

◎ 4月中の自然増減			
出生	26	死亡	18
転入	340	転出	461